

I 令和5年度 学校目標

| | 視点 | 4年間の目標 (令和2年度策定) | 1年間の目標 | 取組の内容 | |
|---|-----------------|---|---|--|---|
| | | | | 具体的な方策 | 評価の観点 |
| 1 | 教育課程 学習指導 | 児童・生徒の実態やニーズに応じた教育内容を、小学部から高等部まで系統的に再編成し、教育課程の改善を図る。 | <p>①学習指導要領に基づき、学習単元を整理し、小中高12年間及び家庭、地域生活を考慮した「系統性・連続性」のある教育課程の編成を推進する。</p> <p>②児童・生徒の実態やニーズを踏まえ、学びの連続性や学部間の系統性の視点をもち、「身につけさせたい力」を柱にした教育内容の改善を進める。</p> | <p>①「系統性・連続性」のある学習単元・授業内容を整理し、期末に年間指導計画等を振り返り、次の学期の計画を見直し、児童・生徒の連続性のある学びにつなげる。</p> <p>②PDCAサイクルによる授業改善に取り組み、「身につけさせたい力」について、担任や保護者、関係機関と共有し、個々の実態やニーズに応じた継続性のある授業実践を進める。</p> | <p>①年間指導計画に「系統性・連続性」のある授業内容・学習単元に取り組み、児童・生徒の連続性の学びにつなげることができたか。</p> <p>②PDCAサイクルにより授業改善を行い、児童・生徒の実態やニーズに合った教育実践が図れたか。</p> |
| 2 | 児童・生徒 指導・支援 | 主体的に生きる児童・生徒を目指し、一人ひとりに応じたきめ細かい指導・支援を組織的に行う。 | <p>①児童・生徒理解を深め、保護者や関係機関等と連携し、個々の実態やニーズに応じた丁寧な指導・支援を組織的に行う。</p> <p>②フォーマルアセスメント等を活用し、児童・生徒一人ひとりの実態を客観的に把握し、「わかる」「できた」と実感し、主体的に学ぶことができる授業を実践する。</p> | <p>①個別教育計画の様式の改訂を行い、作成の過程で保護者や関係機関等と共通理解を図る。</p> <p>②各学部において適切な時期にフォーマルアセスメントをとり、その結果をケースカンファ等にて共有、検討を行い、保護者や関係機関と連携し、個々のニーズに応じた効果的な指導・支援を行う。</p> | <p>①的確な実態把握から個に応じたきめ細かい指導・支援を組織的に行うことができたか。ICT活用等を工夫し、「わかる授業」が展開できたか。</p> <p>②ケースカンファを計画的に行い、フォーマルアセスメントの結果に基づいた児童・生徒が主体的に学ぶことのできる授業実践を行うことができたか。</p> |
| 3 | 進路指導 ・ 支援 | 児童・生徒が地域で豊かに生きていくために、本人及び保護者のニーズに応じたキャリア教育を行う。 | <p>①キャリアパスポートを活用し、「できた」という成功体験を積み重ね、次のステージへ児童・生徒が自信をもって取り組めるキャリア教育を実践する。</p> <p>②地域や関係機関と連携を図りながら、児童・生徒や保護者が卒業後の生活がイメージできるよう情報やニーズに応える情報を提供する。</p> | <p>①ライフステージに沿った指導・支援になるようモデルステップで成功体験を積み重ね、各学部でキャリアパスポートを作成、活用し、保護者と共有する。</p> <p>②進路説明会や個人面談、タウンミーティング、公開講座を活用し、進路や卒業後の生活に関する情報を発信する。</p> | <p>①成功体験を積み重ね、児童・生徒が自信をもって活動に取り組めることができたか。キャリアパスポートを活用し保護者と共有することができたか。</p> <p>②児童・生徒、保護者に対して、卒業後の生活に関する情報を十分に提供することができたか。</p> |
| 4 | 地域等との協働 | 共生社会の実現に向け、地域との相互資源活用や理解推進に取り組む。インクルーシブ教育実践推進校と連携し、支援・推進する。 | <p>①地域の学校との交流及び共同学習の定着を進め、校内外の資源を相互に活用した学習を展開し、相互の理解推進を図る。</p> <p>②センター的機能を発揮し、地域との連携を含め、インクルーシブ教育の推進を図り、地域の学校等と協働した取り組みを進める。</p> | <p>①各学部の実態に応じた交流及び共同学習を実現可能な方法で計画し、地域の学校や関係機関と連携して取り組む。本校の教育活動をTwitterやHP、学校だより等で地域へ幅広く発信する。</p> <p>②居住地交流、学校間交流や校外活動を通して、教職員一人ひとりがセンター的機能の役割を果たし、地域の学校等のニーズを把握し、関係部署と連携し、組織的に支援を行う。</p> | <p>①実態に応じた交流及び共同学習を実施することができたか。また、本校の教育活動をインターネット等活用し、地域へ幅広く発信することができたか。</p> <p>②全教職員がセンター的機能を理解して役割を果たすことができたか。組織的な支援体制を整えることができたか。</p> |
| 5 | 学校管理 学校運営 | 安心・安全な学校であるための体制の整備を進める。働き方改革を進めるとともに、人権を大切にした「支え合い・学び合い」の職場づくりを推進する。 | <p>①学校安全計画に基づき、児童・生徒の安心・安全な教育環境の整備、安全教育等に組織的、継続的に取り組む。</p> <p>②教職員の人権意識等の向上を図り、教職員一人ひとりが共生社会の一員であることを自覚し、児童・生徒の思いに寄り添い、他者との対話を重視し支え合う教育活動を実践する。</p> | <p>①教職員が校内で作成されたマニュアルを実用的なものになっているか訓練毎に点検し、教育環境の整備やマニュアル改善を行う。児童生徒に安全教育を計画的に実施し、自分を守る力をつける。</p> <p>②学部単位や学校全体での人権研修、不祥事防止研修を実施し、互いの人権意識や同僚性の向上を推進する。人権を大切にする表現の一つとして、児童・生徒間や教職員で「さん」づけで呼び合えるよう推奨し、定着を図る。</p> | <p>①訓練や実用時にマニュアルを的確に活用し、安心安全な教育環境の整備や実用的なマニュアル改善が行えたか。安全教育が適切に行われ、児童生徒が自分を守る力をつけることができたか。</p> <p>②研修会を通して、互いの人権意識や同僚性の向上が図れたか。「さん」づけで呼び合うこと意識し、定着することができたか。</p> |